

会議名	第3回港区 SNS 事業支援業務委託事業候補者選考委員会
開催日時	令和8年3月17日（火曜日）午前9時45分から午後0時15分まで
開催場所	港区役所9階913会議室
委員	野上 宏 企画経営部長（委員長） 相川 留美子 企画経営部企画課長（副委員長） 石川 久美子 企画経営部政策広聴担当課長 大塚 浩子 産業地域振興支援部国際化・文化芸術担当課長 溝口 貴裕 教育委員会事務局学校教育部先端教育担当課長
事務局	企画経営部区長室
会議次第	1 開会 2 第二次審査実施概要について 3 事業候補者によるプレゼンテーション及びヒアリングの実施 4 第二次審査結果及び事業候補者の選定について 5 その他 6 閉会
配付資料	[データ配付] 次第 資料1 第二次審査実施概要 資料2 第二次審査採点基準表 資料3 第一次審査・第二次審査集計結果 参考資料1 第一次審査集計結果 参考資料2 事業候補者選考基準 参考資料3 仕様書（案）
会議の内容	
事務局	【1 開会】～詳細省略～
事務局	【2 第二次審査実施概要について】～詳細省略～ （事務局より資料1について説明）
事務局	【3 事業候補者によるプレゼンテーション及びヒアリングの実施】 A事業者の入室をしていただく。 （A事業者入室、プレゼンテーション実施）
事務局	プレゼンテーションを終了します。選考委員会から順次質問させていただきます。

委員Ⅰ	提案内容について、区の要望や施策内容に応じた柔軟な対応はどの程度可能でしょうか。
A 事業者	区が発信したい施策や情報を前提とし、その内容をより効果的に伝えるための表現方法や投稿形式について、柔軟に提案・調整しながら対応します。
委員Ⅰ	行政広報では炎上防止が重要となりますが、ジェンダーバイアスや表現への配慮はどのように行いますか。
A 事業者	ユニバーサルデザインや男女共同参画分野の知見を活用し、表現に偏りが生じないよう複数の視点で確認を行います。イラストや写真素材についても、性別・年齢等に偏りが出ないように配慮します。
委員Ⅱ	業務体制について、専門的な資格を有する人材はいますか？
A 事業者	メディア・ユニバーサルデザイン・アドバイザーの資格保持者が在籍しているほか、コンサルティング部門には統計調査士や社会調査士の資格保持者もおり、分析や検証に生かすことができます。
委員Ⅱ	無関心層や高齢者層へのアプローチについて、どのように考えていますか。
A 事業者	Instagram の主な利用層は 30～50 代ですが、高齢者層の利用も一定数あると認識しています。リール動画等を活用してフォロワー外への露出を高めるとともに、分かりやすい投稿設計により幅広い層への訴求を図ります。1つのメディアだけですべての人にアプローチするのは難しく、メディアの特性に合わせてコンテンツを作っていくことが大事だと思います。
委員Ⅱ	Instagram 投稿を Google 検索など外部検索と連動させる考えはありますか。
A 事業者	検索結果に表示される事例は増えているが、基本的に Instagram はアカウント保有者向けの媒体です。そのため、他の SNS や広報媒体と役割分担し、Instagram の特性に合った情報発信を行うことが重要と考えています。
委員Ⅲ	連休前の投稿準備、また災害時など緊急対応はどのように行いますか。
A 事業者	まとめた納品やスケジュール調整など、区の事情に応じた柔軟な対応が可能です。災害対応などの緊急情報についても、社内体制により迅速かつ臨機

	<p>応変な対応が可能です。</p>
委員IV	A 事業者が運用している他自治体のアカウントでフォロワー数が増加した要因は何でしょうか。
A 事業者	単発的な話題性ではなく、コンセプトを明確にし、継続的に丁寧な運用を行ってきた結果だと思います。フォロワーとの関係性を重視した共創型の運用を行いました。
委員IV	総合計画などの発信実績はありますか。
A 事業者	パブリックコメントの際に広報資料の作成し、ターゲット向けのコンテンツ制作の実績があります。
委員V	数値目標（KPI）はどのように設定し、評価していきますか。
A 事業者	フォロワー数、インタラクション数、オーガニックリーチを主要指標とし、投稿ごとに分析を行います。急激な数値向上ではなく、信頼性を重視した継続的な成長を目指します。右肩上がりでちょっとずつ伸ばしているアカウントだと思います。
事務局	<p>以上で、A事業者によるプレゼンテーションと質疑応答を終了します。</p> <p>（A事業者退室）</p>
事務局	<p>採点をお願いします。</p> <p>（C事業者入室、プレゼンテーション実施）</p>
事務局	プレゼンテーションを終了します。選考委員会から順次質問させていただきます。
委員 I	災害時や緊急情報発信への対応はどのように行いますか。
C 事業者	想定可能な内容については事前にテンプレートや対応フローを作成します。想定外の事象については、区と協議しながら柔軟に対応します。
委員 I	ユニバーサルデザイン、ジェンダーバイアス等表現への配慮はどのように行

	いますか。
C 事業者	どこに対する配慮が必要かを検討し、レビューのフローを必ず設けることで対応していきたいと思います。
委員II	3名の体制ということで、業務体制について担当者が不在となった場合の対応を教えてください。
C 事業者	基本体制は3名としますが、社内のクリエイティブチーム全体でバックアップします。研修や引継ぎにより、品質を担保した対応が可能です。
委員II	高齢者層への情報発信について、どのような工夫を考えていますか
C 事業者	文字サイズや投稿時間帯を調整し、読みやすさを重視します。ターゲットに応じた設計を行うため、事前リサーチを踏まえて提案します。
委員III	想定読者（ペルソナ）はどのような根拠で設定していますか。
C 事業者	Instagram の分析データや投稿傾向を踏まえて仮設定してします。必要に応じて、区と協議しながら再設計することが可能です。
委員III	数値目標として保存率を重視している理由を教えてください。
C 事業者	保存は「役に立つ情報」と判断された結果であり、施策情報が届いた指標として有効です。保存率を高めることで、投稿改善につなげていきたいです。
委員IV	どういった属性の人がいるのか、数字やデータを調べて提案いただくことも可能でしょうか。
C 事業者	Instagram のユーザーから分析して、ターゲットの要望があればそれを踏まえて設定可能です。
委員IV	総合計画など策定した際、どういった発信の提案をしてもらえますか。
C 事業者	どこが気になるか、どこが刺さるか、それをフックに工夫した提案を行います。
委員V	Instagram 用に提案してもらった素材を LINE 等でも利用できるようリサイ

	<p>ズする場合、その費用は現在の見積書に含まれていますか。</p>
C 事業者	<p>はい、含んでいます。</p>
事務局	<p>以上で、C事業者によるプレゼンテーションと質疑応答を終了します。</p> <p>(C事業者退室)</p>
事務局	<p>採点をお願いします。</p> <p>(G事業者入室、プレゼンテーション実施)</p>
事務局	<p>プレゼンテーションを終了します。選考委員会から順次質問させていただきます。</p>
委員 I	<p>他自治体とのアカウント運用の差別化について、港区ならではの工夫をどう行っていくか教えてください。</p>
G 事業者	<p>港区の国際性や文化的特性を重視し、英語併記や多文化共生を意識した発信を行います。観光・生活両面から魅力を伝えます。</p>
委員 I	<p>行政特有の、関心を持たれにくい施策情報はどのように発信しますか。</p>
G 事業者	<p>広告配信やターゲットセグメントを活用し、必要な層に確実に届けます。動画やインフルエンサー施策と組み合わせることで認知を高めます。</p>
委員 II	<p>業務体制について、欠員が生じた場合の対応を教えてください。</p>
G 事業者	<p>社内に同等スキルを持つクリエイターや運用担当者が在籍しており、代替対応が可能です。</p>
委員 II	<p>高齢者層への配慮はどのように行いますか。</p>
G 事業者	<p>文字を大きくし、情報量を整理した投稿設計を行うことで、読みやすさを確保します。ストレスないコンテンツを作成します。</p>
委員 IV	<p>食や観光に関するものは興味を持たれるが、「総合計画」などはなかなか興味をもたれないと考えるが、その場合どう工夫しますか？</p>

G 事業者	ターゲットが絞られた情報だと思います。港区民に対し広告を配信し、ストーリーズをハイライトに残すなどの工夫が考えられます。
委員 V	共同企業体の A 社、B 社の役割を教えてください。
G 事業者	A 社が SNS 運用をメインで行います、B 社は独自の広報インフラをもってお連携する体制です。A 社は行政との連携実績が少なく、B 社がフォローします。
委員 V	見積書を拝見すると割引がついており、負担が気になりました。来年からはこの割引がなくなり、現在の割引分は予算オーバーするものでしょうか。
G 事業者	初年度は実績づくりの位置づけとして対応可能であり、無理のない体制で業務を遂行します。
事務局	以上で、G 事業者によるプレゼンテーションと質疑応答を終了します。 (G 事業者退室)
事務局	採点をお願いします。 (採点・集計) 【4 第二次審査結果及び事業候補者の選定について】 (様式 3 をモニターに投影。採点結果について説明。) 順番に各委員から講評をお願いします。
委員 I	A 社はコンサルとしての実績や行政計画策定部門もありノウハウが蓄積されています。研究員がいるのも強みで、区がやりたいことを実現できると思います全体として評価が高いです。社内に専門家が集まっていて行政らしい SNS 運用が確実にできる力があると感じました。他の自治体とのコンテンツの雰囲気は被らないように区側もコントロールしていく必要があります。C 社は災害時の対応について明確でなく未知数な部分があり、体制面に不安が残りました。G 社は明確な受け答えに感じず、港区の投稿を分析できているか疑問に感じるなど不安要素がありました。

委員Ⅱ	A社は充実した体制で組織的な体制が期待できます。C社は受け答えが1番良かったですが、具体性を感じられずもう少し具体的な提案が欲しかったです。課題設定や分析は的確でした。G社はすべての項目で普通の評価となりました。
委員Ⅲ	A社は説明がわかりやすく、体制やスケジュールも現実的で安心感がありました。業務特性や広報をよく理解しており、実際の経験からよりよい提案をしている印象です。C社は説明が長く提案内容が冗長でした、実働部隊が少なく懸念があります。G社は質問への応答が明確でわかりやすく、高い保存率を得られる投稿を期待できます。安心して任せられる事業者だと評価しました。
委員Ⅳ	A社はわかりやすい説明で実現性も高く、何も言うことありません。区の課題や状況を分析しています。C社は、分析は丁寧ですが、一部を対象に発信しようとしていることが懸念点です。区側の職員の負担が大きくなると感じました。G社は広告に重きを置いており事業候補者とするには不安な点がありました。行政知識や情報が乏しい印象です。
委員Ⅴ	A社は分析力が高く、投稿に戦略性を感じることができ、チームワークも良さそうで頼もしい印象です。スタッフが充実しており本部のフォローも適切です。C社は担当者がとても誠実で柔軟さもあり、着実な業務遂行は期待できますが、体制面に不安が残りました。G社は行政系の広報よりエンターテイメント系の分野で力を発揮する印象です。企画提案書のとおり追加提案は魅力的でしたが、それ以外の部分で不安な面が見受けられました。
委員長	自身の採点について振りかえる時間を設けます。採点を変更する場合は、採点表の原本に朱書きで修正をお願いします。 (修正なし)
委員長	第一次選考では、A事業者が883点、C事業者が811点、G事業者が739点でした。第二次選考ではA事業者が464点、C事業者が416点、G事業者が384点となり、合計はA事業者が1,575点満点中1,347点、C事業者が1,575点満点中1,227点、G事業者が1,575点満点中1,123点でした。なお、第一次選考及び第二次選考のいずれも最低基準ラインの60%以上の得点率で審査基準を満たしています。当委員会としては、A事業者を事業候補者として選定してよろしいでしょうか。

委員長	<p>(異議なし)</p> <p>A事業者を事業候補者として決定します。</p> <p>【5 その他】 (事務局から事務連絡) (質問等なし)</p> <p>【6 閉会】 (委員長から閉会の挨拶)</p>
-----	--